



1. 会社の現況に関する事項

(1) 事業の経過及びその成果

当事業年度における北海道コンサドーレ札幌は、ミハイロ・ペトロヴィッチ氏を監督に迎え、J1リーグで実績のある選手や外国籍選手を含む7名の新加入選手を加え、J1リーグ3年目の舞台に臨みました。

J1リーグ戦においては13勝7分14敗と10位にとどまりましたが、YBCルヴァンカップもリーグ戦と並行して勝ち進み、クラブ史上初の決勝の舞台に進むことができました。決勝戦では延長戦でも勝敗が決せず、PK戦にもつれ込む接戦の末惜しくも敗退してしまいましたが、サッカーの魅力が凝縮された試合を届けることにより、北海道内におけるサッカー熱を高めることができた実感しております。また、アカデミー出身選手としては初めて菅大輝選手と進藤亮佑選手が日本代表に選手され、A代表選出経験がある選手が5名となり、継続したチーム強化の成果が表れております。

一方、経営面においては、株式会社博報堂DYメディアパートナーズとクラブビジネス戦略パートナー契約4年目を迎え、地上波のテレビ放映、新聞広告の掲載等が積極的に行われ、メディアの露出の拡大の効果がありました。財務内容の改善を図るため、効果的な事業展開や興行収入、広告収入及びグッズ収入の強化を行うとともに、事業予算の選択と集中に注力し、興行原価をはじめとする経費の徹底的な見直しを行い、その実現に努力しました。

営業収入は、YBCルヴァンカップ決勝進出に伴い、当初よりも試合数が増加したことによる興行収入の増加やクラブグッズの販売が好調だったこと等により前年実績を上回ることができたものの、ユニフォーム広告の新規獲得を目指し、シーズンを通して営業活動を行いました。新規の広告を獲得することができず、当初の計画を達成することが出来ませんでした。

この結果、当事業年度の売上高は3,599,822千円、チーム強化費を含む売上原価は3,409,862千円となり、販売費及び一般管理費を含めた営業損失は227,110千円、経常損失は148,470千円となり最終的な当期純損失は、149,912千円を計上することとなりました。

興行収入

興行収入はYBCルヴァンカップ決勝進出に伴いホームゲームが3試合増加したことや、リーグ戦の動員が好調だったことに伴い、779,134千円となりました。

広告料収入

広告料収入はユニフォーム広告の新規獲得を目指し、営業活動を行ったものの、獲得することが出来ず、1,470,397千円となりました。

商品売上高

商品売上高はレプリカユニフォームの販売が好調だったことや、新商品の追加により258,849千円となりました。

Jリーグ配分金収入

Jリーグ配分金収入は前事業年度のリーグ戦順位に基づく理念強化配分金を計上したことや、YBCルヴァンカップの賞金を獲得したことから635,458千円となりました。

その他の売上高

その他売上高は、移籍金収入が発生したこと等により、455,981千円となりました。

なお、当事業年度の株主配当につきましては、多額の累積損失を抱えているため、誠に遺憾ながら無配とさせていただきたく、何卒事情をご賢察のうえ、ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

当事業年度の区分別売上実績は次のとおりです。

項 目	平成30年度 第23期		令和1年度 第24期(当事業年度)		
	売上金額	構成比	売上金額	構成比	前事業年度比
	千円	%	千円	%	%
興行収入	635,506	21.3	779,134	21.6	122.6
広告料収入	1,336,138	44.7	1,470,397	40.8	110.0
商品売上高	189,494	6.3	258,849	7.1	136.6
Jリーグ配分金収入	392,288	13.1	635,458	17.6	161.1
その他の売上高	435,326	14.6	455,981	12.6	104.7
合 計	2,988,754	100.0	3,599,822	100.0	120.4

(2) 【対処すべき課題】

当社が対処すべき課題は、経営の健全化とチーム力の強化であります。また、債務超過は2014年度末に解消しましたが、Jリーグクラブライセンス制度の関係上、毎年度末に債務超過に陥らないこと、3会計期間以上当期純損失を計上しても、前事業年度の当期純損失額が期末純資産を上回らないことが必要となります。これらの課題に対処するべく、以下の項目を重点的に取り組んでまいります。

〔Jリーグクラブライセンスの維持〕

Jリーグクラブは公益社団法人日本プロサッカーリーグのJリーグクラブライセンス制度により「競技基準」「施設基準」「人事体制・組織運営基準」「法務基準」「財務基準」の評価に基づきJリーグクラブライセンスの発行を受けており、Jリーグクラブとして活動をしていくためには各基準を満たし、Jリーグクラブライセンスを維持することが必須となります。特に「財務基準」の「債務超過ではないこと」「3会計期間以上当期純損失を計上し、前事業年度の当期純損失額が期末純資産を上回らないこと」が定められており、広告収入及びグッズ収入の強化を行うとともに経営資源の選択と集中に注力し、興行原価をはじめとする経費の徹底的な見直しを行い、その実現に努めます。

〔収益性の向上〕

収益性の向上を図るため、2016年株式会社博報堂DYメディアパートナーズとクラブビジネス戦略パートナー契約を締結しました。

この締結により、財務内容の改善を図るため、効果的な事業展開や興行収入・広告収入の強化と新たな収入の構築を目指すとともに、事業予算の選択と集中に注力し、興行原価をはじめとする経費の徹底的な見直しを行い、事業を展開してまいります。

また、事業支出の全体を常にチェックし経費節減の徹底を図ります。

〔チームの強化〕

当事業年度も、アカデミーから1名昇格し、道産子選手が引き続き多く占めており、育成型に重点を置いたチーム強化の成果が表れて来ております。

これからもトップチームとアカデミーが一体となったチーム強化を進めていきます。一方で、若手選手と外国人選手を効果的に配することで、より実戦的なチームづくりを行ってまいります。

〔アジア戦略〕

2019年シーズンにおいては1月にトップチームのタイキャンプを行い、アジアプロモーションパートナーの露出を中心に日本国内及びタイ国内に向け積極的なプロモーション活動を行い、新たなパートナーの獲得等を目指し収益性の向上を図ってまいります。

〔新型コロナウイルスの感染拡大への対応〕

今般発生している新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、2020年2月よりJリーグ公式戦が中断しております。これにより、試合数の減少が見込まれ、財政状態、経営成績の状況に影響を及ぼすと考えられ、今後の状況を注視してまいります。

貸借対照表

(令和2年1月31日現在)

(単位：千円)

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
【流動資産】	1,291,778	【流動負債】	890,073
現金及び預金	889,339	買掛金	60,286
売掛金	136,584	1年内返済予定長期借入金	30,000
商品	10,525	リース債務	7,064
貯蔵品	54	未払金	53,482
関係会社貸付金	2,000	未払費用	10,554
前払費用	247,223	未払消費税等	20,943
未収入金	598	未払法人税等	6,083
未収還付法人税等	6	前受金	631,493
その他	13,287	預り金	7,580
貸倒引当金	△ 7,840	前受収益	62,585
	615,201		
【固定資産】	615,201	【固定負債】	491,858
(有形固定資産)	123,032		
建物	6,862	長期借入金	300,000
構築物	41,312	リース債務	10,734
車両運搬具	1,745	長期前受収益	171,821
工具器具備品	57,156	退職給付引当金	9,303
リース資産	15,955		
	9,329	負債合計	1,381,932
(無形固定資産)	9,329	純資産の部	
借地権	1,650	【株主資本】	525,047
商標権	5,663	(資本金)	1,287,159
ソフトウェア	802	(資本剰余金)	376,669
電話加入権	1,214	資本準備金	376,669
(投資その他の資産)	482,838	(利益剰余金)	△ 1,138,780
関係会社株式	5,000	その他利益剰余金	△ 1,138,780
出資金	10	繰越利益剰余金	△ 1,138,780
関係会社貸付金	18,000		
長期前払費用	465,765		
敷金	12,024		
その他	39		
貸倒引当金	△18,000	純資産合計	525,047
資産合計	1,906,980	負債・純資産合計	1,906,980

損 益 計 算 書

〔 自 平成31年 2月 1日 〕
〔 至 令和 2年 1月31日 〕

(単位：千円)

科 目	金	額
売 上 高		3,599,822
売 上 原 価		3,409,862
売 上 総 利 益		189,959
販売費及び一般管理費		417,069
営 業 損 失		227,110
営 業 外 収 益		
受 取 利 息	39	
寄 付 金 収 入	2,856	
補 助 金 収 入	65,800	
Jリーグ支援金収入	11,500	
そ の 他	9,194	89,390
営 業 外 費 用		
支 払 利 息	4,720	
為 替 差 損	1,599	
貸 倒 引 当 金 繰 入	264	
そ の 他	4,166	10,751
経 常 損 失		148,470
税引前当期純損失		148,470
法人税、住民税及び事業税		1,442
当 期 純 損 失		149,912

株主資本等変動計算書

〔 自 平成31年 2月 1日 〕
〔 至 令和 2年 1月31日 〕

(単位：千円)

	株主資本						純資産合計
	資本金	資本剰余金		利益剰余金		株主資本合計	
		資本準備金	資本剰余金合計	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金合計		
平成31年2月1日残高	1,287,159	376,669	376,669	△988,868	△988,868	674,959	674,959
事業年度中の変動額							
当期純利益	—	—	—	△149,912	△149,912	△149,912	△149,912
事業年度中の変動額合計	—	—	—	△149,912	△149,912	△149,912	△149,912
令和2年1月31日残高	1,287,159	376,669	376,669	△1,138,780	△1,138,780	525,047	525,047

議決権の代理行使の勧誘に関する参考書類

株式会社コンサドーレ

1. 議決権の代理行使の勧誘者 株式会社コンサドーレ
代表取締役社長 野々村 芳和

2. 総株主の議決権数 350,172 個

3. 議案及び参考

第1号議案 取締役3名選任の件

当社の取締役・五十嵐 真人氏、南部 謙治氏、神代 晃嗣氏の3氏が本総会終結の時をもって退任の予定となりますので、取締役3名の選任をお願いするものです。

なお、取締役候補者は、次のとおりであります。

氏名 (生年月日)	略歴、当社における地位、担当 (他の法人等の状況)		所有する当社の株式数
いわさき ひであき 岩崎 秀昭 (昭和41年7月22日生)	平成元年4月	(他の法人等の状況) 株式会社 博報堂 入社	一株
	平成17年4月	同 第三営業局第二アカウントチーム アカウントマネージャー	
	平成24年4月	同 第三営業局局長代理 兼 第三営業局第二アカウントチーム アカウントマネージャー	
	平成25年4月	同 第三営業局局長代理	
	平成26年4月	同 第三営業局長	
	平成29年4月	株式会社博報堂DYメディアパートナーズ メディア・コンテンツビジネスセンター長	
	平成30年4月	同 コンテンツビジネスセンター長 兼 エンタテインメントビジネス局長	
	平成31年4月	同 執行役員 コンテンツビジネスセンター担当コンテンツビジネスセンター長 兼 エンタテインメントビジネス局長	
令和2年4月	同 執行役員 コンテンツビジネスセンター担当コンテンツビジネスセンター長 (現任)		
なか であ かずや 中寺 一也 (昭和40年4月27日生)	平成4年4月	(他の法人等の状況) 株式会社 北海道新聞社 入社	一株
	平成26年4月	同 経営企画局 経営本部担当部長	
	平成30年6月	同 経営企画局 企画委員	
	令和2年3月	同 企画室 室次長 (現任)	

いし くら ほん し 石 黒 真 司 (昭和 54 年 8 月 7 日生)		(他の法人等の状況) 株式会社 ナンシンデザイン 営業本部長	
	平成 20 年 1 月	一般社団法人札幌青年会議所 子供の未来育成委員会委員	
	平成 21 年 1 月	同所 札幌の魅力探訪委員会副委員長	一株
	平成 27 年 1 月	同所 次世代環境創造委員会委員長	
	平成 28 年 1 月	同所 常任理事/魅力ある人材育成室長	
	平成 29 年 1 月	同所 副理事長	
	平成 31 年 1 月	同所 理事長	
	令和 2 年 1 月	同所 直前理事長 (現任)	

(注) 1. 取締役候補者 岩崎 秀昭氏、中寺 一也氏、石黒 真司氏の 3 氏は社外取締役であります。

2. 取締役候補者と当社との間に特別な利害関係はありません。

3. 社外取締役候補者とした理由は下記のとおりであります。

(1) 岩崎 秀昭氏につきましては当社の事業戦略上の重要なパートナーである株式会社博報堂 DY メディアパートナーズにおいて執行役員コンテンツビジネスセンター担当コンテンツビジネスセンター長を務めており、スポーツ全般、マーケティングでの豊富な経験及び専門知識を当社の経営に生かしていただくために、社外取締役候補としてお願いするものであります。

(2) 中寺 一也氏につきましては、経営管理部門での豊富な経験を当社の経営に生かしていただく

く

ために、社外取締役候補者としての選任をお願いするものであります。

(3) 石黒 真司氏につきましては、企業経営に関する豊富な人脈を当社の経営に生かしていただくために、社外取締役候補者としての選任をお願いするものであります。

役員就任ご挨拶

謹啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、4月24日開催の第24回定時株主総会及び取締役会におきまして下記のとおり役員が選任され、就任いたしました。

何卒、ご高承のうえ今後とも一層のご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

まずは略儀ながら書中をもってご挨拶申し上げます。

謹白

令和2年4月吉日

株式会社コンサドーレ

代表取締役社長 CEO 野々村 芳和

2020 株式会社コンサドーレ執行体制

最 高 顧 問		石 水 勲		石屋製菓(株) 代表取締役会長
代表取締役社長CEO		野々村 芳 和		
取 締 役GM		三 上 大 勝		
取 締 役CMO		中 嶋 晋 一 郎		(株)博報堂 DY メディアパートナーズ シニアコンテンツプロデューサー
取 締 役	(非常勤)	石 水 創		石屋製菓(株) 代表取締役社長
取 締 役	(非常勤)	柴 田 幸 一 朗		ダイヤモンドヘッド(株) 代表取締役
取 締 役	(非常勤)	平 井 睦 雄		(株)進学会ホールディングス 代表取締役
取 締 役	(非常勤)	岩 崎 秀 昭	(新任)	(株)博報堂 DY メディアパートナーズ 執行役員 コンテンツビジネスセンター担 当コンテンツビジネスセンター長
取 締 役	(非常勤)	桑 折 功		(株)札幌丸井三越 取締役執行役員 総務 部長
取 締 役	(非常勤)	中 寺 一 也	(新任)	(株)北海道新聞社 企画室 室次長
取 締 役	(非常勤)	北 野 靖 尋		(株)札幌ドーム アドバイザー
取 締 役	(非常勤)	富 山 浩 樹		サツドラホールディングス(株) 代表取締役 社長
取 締 役 社長アドバイザー	(非常勤)	瀬 口 篤 紀		(株)ラーナヴェルデ 代表取締役
取 締 役 ビッグマッチ開発アドバイザー	(非常勤)	浦 谷 幸 史		(株)Hand Made 代表取締役
取 締 役	(非常勤)	廣 田 恭 一		札幌商工会議所 専務理事
取 締 役	(非常勤)	石 黒 真 司	(新任)	(社)札幌青年会議所 直前理事長

監 査 役	(非常勤)	宮 澤 秀 夫		コンサドーレサポーターズ持株会 理事 長
監 査 役	(非常勤)	池 脇 竜 太		税理士法人池脇会計事務所 代表社員 所長
監 査 役	(非常勤)	有 田 眞 人		有田真人税理士事務所 所長